

成田市都市計画審議会 会議概要

1 開催日時

平成29年2月13日（月） 15時30分から16時30分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

(委員)

宗藤会長、鎌田委員、中村委員、諸岡委員、雨宮委員、会津委員、松田委員、山岸委員、蛭子委員（山本委員代理）、茂手木委員、中佐藤委員（順不同）

(事務局)

齊藤都市部長、藤崎都市計画課長、堀越都市計画課長補佐、腰川係長、飯嶋主査、池田主任主事

4 議題

議案第1号 成田市立地適正化計画（都市機能誘導区域編）の策定について
〔諮問〕

5 議事(要旨)

議案第1号「成田市立地適正化計画（都市機能誘導区域編）の策定について」の諮問では、挙手全員で案のとおり承認されました。

(質疑応答)

議案第1号 成田市立地適正化計画（都市機能誘導区域編）の策定について〔諮問〕

質 問（委 員）

公共施設の老朽化が一斉に進むと予想されており、立地適正化計画の検討にあたっては、公共施設の再編計画を先行させている自治体もある。公共施設再編の状況について、市はどのような状況か。

回 答（事務局）

市では、公共施設総合管理計画を今年度策定する予定となっております。

本計画の策定にあたっては、公共施設総合管理計画の担当部局と連携を図りながら検討を進めております。

意 見（委 員）

公共施設再編との連携は極めて重要である。連携と一言でいうのは簡単だが、本計画で示されている施設についても、複合化や一体的運営など具体的に検討していくものと思われるので、現実的なものとして検討されたい。

また、学区の見直しやそれに伴う学校の建て直しなども関連してくるため、関係部局とも十分に連携し、長期的な視点も含め検討されたい。

回 答（事務局）

立地適正化計画については、まちづくりに関わる庁内横断的な検討が必要となるため、内部の検討組織を立ち上げ、学校を含めた公共施設を管理する関係課などと調整を図りながら、策定を進めてまいりました。

ご指摘のとおり、市の公共施設もこれからますます老朽化が進み、費用がかかっていきます。将来を見据え、立地適正化計画の重要性を認識していただき、関係各課と連携を深めていきたいと考えております。

質 問（委 員）

具体的な成果指標を定め、5年ごとに評価していく必要があると思うが、どのような指標を立てていくのか。

たとえば、市内での人口移動のほか、大学の開校などを踏まえた新たな人口の定着などを指標とすることも考えられるが、具体的に想定しているものはあるか。

回 答（事務局）

公津の杜地区では学術・医療集積拠点として大学が開校し、学生や職員の方々の転入など新たな人口の流入が見込まれている一方で、ニュータウン地区では、今後高齢化の進展や住み替えなどが課題となっていくものと認識しております。

来年度定める居住誘導区域では、こういった状況を踏まえ、居住の誘導を図る

区域を検討するとともに、居住を有効に、適切に誘導するための施策を検討していくこととなってまいります。この検討にあわせて、成果指標についても具体的に検討していくこととなります。

質 問（委 員）

計画書内のグラフについて、元号が近々変更になると考えられるため、西暦表示を検討してはどうか。

回 答（事務局）

出典との関係で、「平成」と表記している部分もありますが、修正できる部分については、ご指摘のとおり表記を検討したいと思います。

質 問（委 員）

ウイング土屋の北側に国際展示場が作られるような計画が持ち上がっていると聞いている。立地適正化計画のなかにはそのような計画に対しての考えは示されていないが、どのように考えているのか。

回 答（事務局）

ウイング土屋地区は都市拠点と位置づけておりますが、上位計画である成田市総合計画や都市計画マスタープランでは、（仮称）土屋駅北側の土地利用に関する具体的な位置づけはありませんので、立地適正化計画においても位置づけは行っておりません。

質 問（委 員）

国際展示場だけでは採算がとれないため、カジノを入れ込めば大きな収益が見込めるということを試算していると聞いている。カジノができる場合には、成田市全体として大きな問題であると思う。

立地適正化計画自体は良いと思うが、立地適正化計画を定めるにあたって、ウイング土屋地区北側の内容を入れる必要があるのではないか。

回 答（事務局）

立地適正化計画は、今後進展する少子高齢化などの課題に対応するため、都市を集約し、公共交通ネットワークによって拠点同士を相互に補完していくまちづくりを進めるためのマスタープランであり、新たにまちづくりをするという考え方とは一線を隔した計画でございます。

NARITAみらいプランには、MICE機能を誘致するという記載がありますが、その内容が明確になってきた際には、都市計画マスタープランにおいても施策・方針を改めて位置付ける形になると考えておりますので、その位置づけを

踏まえたうえで、それをどのように立地適正化計画で捉えるのか、見直しの時期が来ましたら検討してまいりたいと考えております。

質 問（委 員）

市は、この展示場の計画についていつ頃から知っていたのか。

回 答（事務局）

今年に入ってから構想を伺いました。

質 問（委 員）

P 5 1 の青枠の日常生活圏というところで、「生活に身近な居住地内に適度に分散していることが望ましい機能」という表現があるが、この考え方をもち、居住誘導区域へと繋げていくのか。

回 答（事務局）

都市機能が集積しているところは、将来に渡ってその機能を維持していくという考えを基本的な考えとしております。

これから高齢化が進展すると、車がなければ生活できないという高齢者も増加してきますが、都市を維持し、不便さをなくすためにもバス等の交通機関を確保して、各地域での生活利便性を維持していこうという考えであります。

意 見（委 員）

都市部であるニュータウン地域や成田駅周辺の利便性を維持していくという点については、それほど心配していないが、市街地外に対しての計画はどのように具体性を持って進めていくのか。計画を現実のものにするというのは相当難しいことであるため、計画倒れになることのないように進めていただきたい。

また、居住誘導区域の設定の方が、住民に対して配慮をもって進めていかなければならない部分になるかと思う。上手く関連付けて進めていただきたい。

質 問（委 員）

P 5 6 に新たに立地が求められる施設とあるが、成田駅周辺で立地を想定している場所はあるのか。

回 答（事務局）

成田駅周辺で施設の明確な位置づけは示しておりません。しかし成田駅周辺には、買い物駐車場の用地など市が保有している公的不動産がいくつかございます。そのような土地を利用して、施設の立地を誘導する施策を示し、土地活用を図っていきたくと考えております。

6 傍聴者

6名

7 次回開催日時（予定）

平成29年5月下旬